

令和7年度第1回大野城市民読書活動推進委員会 会議録

日 時 令和7年7月 9 日(水)10:00～11:30

場 所 市役所本館4階 全員協議会室

出席者 部会員 齊藤智子会長、森部敦子副会長、河井律子委員、久家幸雄委員、橋本洋子委員、川口佳代子委員、見城享子委員、大熊あい子委員、古賀浩利委員、山内友香委員

事務局 緒方地域創造部長、岩下コミュニティ文化課長、荒牧コミュニティ文化課芸術文化担当係長、荒武主任主事、武内
中川学校・地域連携課地域連携担当係長

内 容

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 委員自己紹介
- 5 事務局紹介
- 6 会長・副会長の選出

会長について、委員からの立候補や推薦等がなかったため、事務局より、以前、本市が大野城市子ども読書活動推進計画に基づき読書活動推進を行っていた経緯より、前会長と同じく小学校の校長を務めている齊藤委員を推薦し、拍手承認された。

副会長について委員からの立候補や推薦等がなかったため、事務局より、本市の読書活動の中心であるまどかぴあ図書館の館長、森部委員を推薦し、拍手承認された。

7 議題

(1)大野城市民読書活動推進計画について

事務局より、以下の項目について説明を行う。

- 策定の経緯
- 計画期間、対象
- 推進体制
- 現状と課題
- 本計画の目指す姿
- 計画の体系
- 具体的な事業
- 〈意見、質問等〉

河井委員	・地域民間企業とタイアップして読書感想画コンクールを実施して、画を貼り出す等している地域もある。民間の連携があるといい。 ・市読書計画は綺麗に作られているが、計画の広がりが気になること
------	---

	ろ。前に踏み出すことが大事ではないか。 ・市内の筑紫中央高校の高校生をターゲットにしてはどうだろうか。中高生の読書離れが深刻化しているので、電子図書館の ID を付与等もう少し広がりが見たい。
古賀委員	・若者の活字離れは問題となっているが、意外と大人の方が疲れている。電車でも、大人は携帯を見ていたり、眠っていたり、子どもの方が本を読んでいる姿も見かける。 ・本は読む子と読まない子がはっきりしている。 ・前任の高校では、ビブリオバトルをしていた。クラス予選。学年、全校、案外盛り上がる。読書率がぐんと上がることがある。 ・市で大きな視点を持って、市でビブリオバトルを実施する等、大きな視点もあっていいのでは。
事務局	・民間との連携については、市内の喫茶店に図書館の団体貸出を実施している。 ・今後も民間との連携について情報や提案があれば、些細なことでもいいので教えていただきたい。 ・筑紫中央高校には電子図書館の ID を付与済。引き続き読書に親しんでいただきたい。 ・ビブリオバトルは、市内の一部の中学校で実施した映像を見たことがある。生徒がとても楽しそうだった。本に興味を持つ取組を実施できるといい。
斉藤会長	・小学校でも、本の紹介について 5、6 年生を中心に行っている。とても盛り上がる。楽しく学習している。

(2) 評価・検証の流れについて

事務局より、以下の項目について説明を行う。

○大野城市民読書活動推進委員会

○計画の推進、進行管理

○評価、検証の具体的な流れ

○具体的なスケジュール

〈意見、質問等〉

古賀委員	・成果指標がわかりやすい。
------	---

8 その他

〈各委員より、本計画への感想や日々の読書活動へのお気づきの点等〉

河井委員	・読書リーダーを毎年養成するのに、リーダーを育成してもそこで終わってしまう。その先、何年経っても一緒にやれるような仕組みを作してほしい。
久家委員	・公民館には地域貸出文庫があるが、借りに来るのはほとんど同じ人。一人2冊まで借りられる。親子で来館され。親も好きだから借りていく。 ・私の孫はタブレットでYouTubeばかりで、本を読まないだろうなと感じる。 ・文庫運営者は比較的若い年代。6人で30代もいる。毎月本の棚卸をして新刊を買ったりリクエスト受けていたりしている。
橋本委員	・各コミュニティセンターで絵本のおはなし会の実施内容について試行錯誤しながら行っている。 ・乳幼児向けのおはなし会は参加者が多いが、幅を広げるため色々な取り組みに挑戦している。これまでに外国人ボランティアによる外国語のおはなし会や小学生向けのおはなし会などを実施した。問題点は色々あるが、めげずに頑張っている。 ・小学生向けのおはなし会は高学年の参加が難しく、本の読み聞かせより体育館で体を動かす方を好む傾向にある。「おはなし会を聞いてみない？」と声掛けを行い、渋々参加した子も始まってみると耳を傾けていることも多い。やり続ける価値はあると感じた。 ・今後は大人向けおはなし会もやってみたい。
川口委員	・所属している文庫の役員は20人在籍。みんな本が好きだから辞めない。 ・本がある場所に連れて行くと、子どもが本を好きになる。 ・「どうして本を読まなきゃいけないの」と聞かれる。 ・文庫の部屋は昨年度から常時開放となり、文庫の部屋で勉強する子や、待ち合わせする子がいる。 ・本は今すぐには役に立たないかも、いつか役に立つからと楽しみに読んでと言う ・また、地区の民話を話すと、地元のことだから子どもたちも興味を持つ。 ・文庫にいつでも来ていいよと声かけている。 ・縛ると子どもたちが嫌がる。 ・知らないことから本を読む。 ・借りなくてもいい、そこで読む、続きをまた読みに来る。

	・いくら進めても興味がないと読まない。 ・いかに何に興味があるかを見極めることが大事。
見城委員	・毎週土曜日に図書館でおはなし会をしている。 ・小学生を対象としているが、小学生は忙しく、あまり来ないため小さい子が多い。 ・ご褒美シールをためたりして、喜んでもらっている。 ・7/26に夜はなしをやるが、地区の夏祭りと被っているため、日程調整も今後は必要かもしれない。 ・普段ない夜のお話会に向けて怖いお話とかブラックパネルシアターの練習をしている。来てもらえると嬉しい。
大熊委員	・大人は自分で本を選び、手に取ることができるが、子どもは自分で本を選べないので、間に立つ人が本を手渡す環境が必要。 ・大人でも、図書館サービスについて、知らなかったという人が多い。とにかく図書館に行ってみよう。の周知が必要。 ・保育所では絵本の貸出もしている。 年中、年長は自分で選ぶ。家に持って帰ると親が読んでくれる。 年齢の低い子たちは親子で選んで帰る。低い棚で子どもが選べるよう設置している。 ・子どもたちは、先生が本を持っているとすごく大事なものと感じる。 本はいいものと思う感情が芽生えてくれるといいなと思う。 ・どの保育所も貸出はしているはず。中には貸し出した本の感想を書いている保育所もある。
古賀委員	・人間関係での疲れや、リフレッシュのため、図書館が果たす役割は大きいと感じる。 ・図書館は癒しの場として、読書推進をつなげていくのがいいのでは。環境と癒しと2つの面からアプローチしていけたら。
山内委員	・ビブリオバトルや読書リーダー等、言葉等を使って表現をすることに、読書計画の目的に持っていけるような質疑応答がとても興味深かった。今後、中学生とそれ以上への読書推進の取組について、一緒に考えていきたい。 ・図書館の本が置いてある喫茶店はどこか。周知はしているか。本の是非行ってみたい。 (→コメダ珈琲。図書館ホームページとコメダ珈琲の店内入口で周知している。) ・民間スーパーや本のリサイクルショップとも連携できるといい。 ・図書館の除籍資料に、朗読CDは含まれているか。 (→含まれていない。)
森部副会長	・様々な立場の皆様の活動のお話が聞けて勉強になった。

	・中高生へは、友達や推しの有名人等がおすすめるに興味を持つと言われる。うまく利用したい。 ・居場所としての図書館は、図書館の面積の関係で読書席も少ないので課題ではある。 ・図書館システムが変更する。9月10日～3週間ほど休館となるため、ご迷惑をおかけする。
斉藤会長	・各文庫や図書館おはなし会わくわくでは、子どもたちがお世話になっている。 ・小学校では、図書司書が中心にイベントを実施している。読書貯金通帳も活用している。季節の行事も行っている。 ・子どもたちは、みんな本が好き。授業の残り5分で読書、ということもよくある。この習慣が中学生、大人になっても続くといいなと思う。 ・先日、積文館のブックトラムが学校に来た。図書委員が学校に購入したい本を選び、金額を計算し、購入まで行った。 ・最近、昼休みは暑くて遊べない。移動図書館車が昼休みに学校に来て本を借りられたらいいなと思う。 ・今後も、推進委員の皆様といろいろなことを考えていきたい。
事務局	・それぞれの見地から忌憚なくご意見をいただきたいと思いお伺いした。行政職員として気づかない部分を気づかせてもらえた。 ・読書推進の入口が、本を読む人や図書館に来る人だけを広げるだけではない。 ・読書を推進するということ一に据えて何かをやっていく視点も大事だが、多様な生活環境に読書を結びつける。相互に結び付ける。民間施設、企業、書店等と結びつけて市民の皆さんに読書って楽しいと思ってもらえる取組を進めていきたい。 ・現計画には民間との連携の明記はないが、皆さんからいただいた意見に取り組むことが大事だと思う。 ・引き続きご意見をいただいて、まさにスローガン通りのまちになっていければいい。引き続きよろしくお願いする。